

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 豊かな実践に高める —

8



■シリーズ「人・任・仁②」

- ◎新会長就任 一般財団法人山口県教育会 会長 倉増 誠彦
- ◎支部長紹介 防府支部 支部長 佐川 信夫
- 萩支部 支部長 池田 廣司
- 新たな職務に思う 下関市立熊野小学校 養護教諭 安村 美穂
- 周防大島町立東和中学校 養護教諭 開田 真由
- 和木町教育委員会 指導主事 貴船 光
- 山陽小野田市教育委員会 指導主事 稲田 貴子
- やまぐち見てある記 秋吉台科学博物館
- 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
- わたしの潤い 柳井支部 須内 章雅
- 下関支部 川崎 誠和
- 教職時代を偲ぶ 山口支部 寺田 勉

平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品
 「みんなで進もうヨーイショ!!」
 周南市立福川小学校 5年 (受賞時) 犬野 華音

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768
 URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp
 明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

あなたのアクションは…

- 山口県教育会がすすめる
 「元気やまぐち」三つのアクション
- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
 - ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
 - ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

就任のあいさつ



この度、井上 洋前会長の後を承け、先の理事会におきまして会長に選任されました。何分にも微力な身であり、荷がかちすぎの思いは否めませんが、会員各位、さらには県民の御理解と御協力を賜り、最善の努力をいたす所存でございますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

山口県教育会は、明治十五年、時の県令原保太郎氏により県下教育の振興を目的として設立されました。設立以来百三十五年余の本会の歩みは、防長教育の伝統を踏まえつつ様々な苦難、変遷を乗り越え、その時代時代の教育的要請に真摯に対応してきた歴史であります。先人の御努力、関係方面の御支援、また会員、県民各位の御協力の並々ならぬものを痛感し、深く敬意と謝意を表する次第であります。そして、改めてその実績の偉大さに感銘し、後に続く者の責務の重さを肝に銘じたところであります。

今日の山口県教育会は、平成二十四年、山口県知事から「一般財団法人山口県教育会」として認定され、「本県教育の刷新充実と振興に寄与し、日本の興隆と芸術文化の発展に貢献する」ことを目指す民間教育団体としてスタートしました。平成二十六年度からは、主題「明日を拓く」を掲げ、「混沌とした社会の中にあっても、将来に明るいビジョンを描き、自分の進むべき道を力強く切り開いていく力の育成」を目指して七年計

一般財団法人山口県教育会

会長 倉増 誠彦

画で各種事業を展開しております。今後も各事業において一層の内容充実と深化に努め、時代の要請に応える歩みを続けて参りたいと考えております。

今日、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもたちをめぐめる問題はますます深刻さを増しており、そのための方策が様々に追求されています。

山口県教育委員会では、人生百年時代といわれる子どもたちの未来を明るいものにできるよう「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」という教育目標のもと、当面する課題の一つとして学校と地域の連携の推進をあげています。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、学校、家庭、地域が相互に連携しながら子どもたちを育成することが一層重要になっています。

そうした中、地域の教育力を発揮する存在として、とりわけ民間教育団体への期待が大きくなっています。山口県教育会も民間教育団体としてその一翼を担うべく、山口県教育の振興に寄与しなければなりません。会員の皆様は、これまでの人生を通じて豊富な経験と知識を蓄えておられます。そして、現在それぞれの支部で地域に根ざした活動が展開される中、その蓄えを基に様々な活躍しておられます。これからの変わらぬ、また、なお一層お力を発揮され、山口県教育会を盛り立てていただきますようお願い申し上げます。

山口県教育会は、一般財団法人としてこれまでの理念を継承しつつ、教育団体や機関など、地域の多様な団体と協働して社会総がかりの活動を展開し、社会的信用、評価を得るよう努めなければなりません。今後は、本会の定款に沿った組織づくりを基本として、公正かつ透明性のある運営に心がけ、積極的に情報開示を行っていくことにより、本会が抱える諸課題を克服し、信頼され所属感のある教育会として充実、発展するよう尽力して参りたいと存じます。

幸いにも本県には、県民の教育に対する高い関心、あるいは使命感に燃えた多くの先生方の存在、更には自然豊かな教育環境があります。こうした基盤を背景にして、もとより微力ではありますが、山口県教育会の更なる発展に最大限の努力をして参る所存でございます。どうか皆様方の御支援、御協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。就任の御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。



支部活動の特色と役割



防府支部
支部長 佐川 信夫

大先輩からこの役職を引き継ぐことになり、初めは自分の体調と能力の関係でお断りしたのですが、どうしてもの要請でお受けしました。会員数が千名を超える伝統ある防府支部の役職は、地域の事情に精通して実績のある方々が担ってこられています。県下で教育会活動モデル地区として活動が評価されています。会員各位と役員諸氏の連携努力のおかげと思います。

防府支部の特色ある「三大事業」を紹介します。吉田松陰先生の学問と教育の業績を偲ぶことにより、教育の原点を再確認し、郷土の歴史的遺産に触れる生涯学習の実践の場として永く引き継ぐ事業です。

「松陰に親しむ会」では、平成十六年度から貸切バスで一日見学旅行を実施し、毎年県内各地を訪問しています。事業部会の委員が担当して現職会員や会員家族も参加して好評です。

「松陰の道歩行大会」では、松陰先生の道筋に点在する歴史的遺産を学ぶ

②ふるさと防府の歴史探訪を行う

③四季の自然に触れて旧山陽道の維

持管理に寄与し、自己の健康管理を図る

を旨とします。幟旗を会員一行の活動の証しに、休憩時のおにぎりとお茶の一品が最高の実り多き一日です。

「郷土の偉人・文人に学ぶ会」では、人物の業績を理解し、生き方を学び、伝統と文化を未来に伝承する役割を果たすものです。昨年度は、新築開館の「山頭火ふるさと館」にて、山頭火の秀句をその背景と共に味わいました。

会員部役員諸氏の企画で「支部だより」を継続して発行し、公民館等にも広報し、活動周知と地域相互連携の大切な役割を担っています。

現在の支部活動を継承発展させていくことも重要な務めだと思えます。課題である会員の減少、高齢化と役員交代の困難性、地域連携の希薄、少子化等の教育環境の変化はますます進んでいます。限られた会費財源の中で、教育会の支部活動の時機を捉えた変革に取り組まなくてはならないと考えています。各種会合に参加させてもらい、理解協力と参考意見をいただけるよう願う昨今です。

支部組織と事業の充実をめざす



萩支部
支部長 池田 廣司

第二の人生は、念願であった柑橘栽培など、農業を楽しむとともに、地域のために少しでも力になることができればという思いで過ごしています。この思いを生活の中心に据えて、現在は、山口大学教職大学院とやまぐち聖地域連携教育の推進の仕事にも携わっています。こうした中、前萩支部長より支部長を引き受けてほしいという依頼があり、「他に仕事をもつても大丈夫」のひと言で引き受けることを決心しました。

萩支部では、六年前にも執行部である支部長・副支部長・事務局長・会計のすべてが交替し、今回も同様の人選が行われました。萩支部の強みは、支部組織が充実していることです。支部組織を構成する一般会員及び理事、地区委員、学校、PTA等の役員はもとより、「松陰を学ぶ会」「萩松朋会」「女子研究会」の三グループの存在はとて大きいと感じています。また、活動の特色として、吉田松陰先生の教えや生き方を学ぶ事業である「松陰に親しむ会」「子どもが学ぶ松陰先生」「松陰の道歩行大会」の三つの事業が市民や子どもたちに親しまれていることです。これらの事業への参加者は、ここ数年増加傾向にあります。この背景には、それぞれの事業の計画・

実施・反省と改善など、その都度綿密な話し合いが行われ、実施されていることが関係していると思います。こうしたマネジメントを是非継続していきたいと考えています。

私たちの役割は、萩支部の財産である支部組織と三大事業を継続・充実させることです。今年、明治維新百五十周年の節目にあたります。これを一つの契機として、子どもたち、教職員、市民が先人の思いや志にふれ、現在や未来を見つめることができると念じて任にあたつていきたいと思えます。



理想の養護教諭をめざして



下関市立熊野小学校
養護教諭 安村 美穂

養護教諭になるという夢を叶え、熊野小学校で働き始めて無事一学期を終えることができました。新しい土地での仕事や生活であつという間に過ぎていく毎日ですが、子どもたちの笑顔や教職員、保護者、地域の方々の優しさに支えられながら充実した日々を送っています。

着任した本校は、開校二十九九年目の下関市で一番新しい学校で、明るく元気な七百九十名の児童が通っています。養護教諭は複数配置で、先輩養護教諭からたくさんの方々の指導や助言を受けながら職務にあたっています。

六月の初めに全校で実施した「歯の保健指導」では、二、三年生のクラスで正しい歯のみがき方について担任の先生と協力しながら授業をしました。指導の仕方に課題もありましたが、私の授業を楽しみにしている姿や、歯垢を赤く染め出してわかつたみがき残しに驚いて一生懸命歯みがきをする姿をとても嬉しく思いました。保健室で見せる姿とは違う一面を知れたことも大きな学びで、改めて、保健室だけに留まらず校内の様子を積極的に見ていくことの大切さを感じています。

保健室には、心身の不調を訴え一日平均三十人ほどの児童が来室しま



す。来室者対応に追われる中で、声かけや対応で反省することもしばしばですが、その度に、忙しい中であっても、何かしらの思いをもって来室している児童の出すサインを見逃してはいけないことや、その背景にあるものをしっかりと考え、対応していく大切さを痛感しています。

本校の強みである「養護教諭二人体制」、「大規模校」、「若手教員が多い」、「コミスクが盛ん」をしつかり生かしながら多くのことを吸収し、積極的にいろいろなことにチャレンジしながら、養護教諭として何倍も成長していけるように努力を続けていきたいと思っています。

安心感のある保健室を目指す



周防大島町立東和中学校
養護教諭 開田 真由

新規採用として四か月が過ぎました。養護教諭としての新しい生活は、とても忙しく、またとても充実した毎日です。本校は周防大島町の中学校です。壮大な海と山に囲まれており、常に自然とふれあえる環境にあります。そのような中で育ってきた本校の生徒たちは、とても伸び伸びとしています。

また、全校で五十七名の小規模校であるため、学年を問わず仲が良く、様々な場面で協力し合う姿が見られます。地域との繋がりも深く、水曜日の「二輪挿し活動」やテスト期間の「質問教室」など、生徒のために、多くの支援をしていただいています。そのような恵まれた場所で養護教諭として働ける今をとて有難く思っています。

四月のスタートから、立ち止まってしまうことが何度もありましたが、生徒たちから活力をもらい、日々のやる気へと繋がっています。また、それだけではなく、困った時は、同じ職場で働く先生方への確かな助言や指導をしていただき、温かい保護者の方々や地域の方々にも支えられ、とても心強く感じています。

毎日もらっているそのようなパワーを保健室経営に生かし、生徒たちが何かにつまずき、自分ではどうしようもできなくなった時、安心感の得られ



る保健室を創り上げていきたいと思っています。そのために、生徒たちを温かく受け止め、笑顔になれるためのクッションのような存在となるよう、養護教諭としての信頼性、専門性を磨いていきたいと思っています。

これから何十年と教員生活を送る中で、養護教諭としてさらに飛躍していけるよう、毎日の保健活動・教育相談活動に力を入れ、日々精進していきたいと思っています。

毎日が充実！！



和木町教育委員会
指導主事 貴船 光

新しい職場に赴任して四か月が過ぎようとしています。新米指導主事として、毎日が新たな発見の連続で充実した日々を送っています。

四月当初、「指導主事の仕事とは何？」という自問自答からはじまり、現場の先生方との関わりの中で少しずつではありますが、自分の役割に気付いていきました。学校現場から離れ、成すべき役割は変わりましたが、このことを良い機会ととらえ、より広い視野で物事を捉えることができるよう自分自身を磨いていきたいと思っています。

直接、子どもに寄り添いその成長を見届けることはできないのですが、和木町教育委員会の事務局は、和木中学校の目の前にあり、生徒と話をしたり、一緒に活動をしたりする機会がたくさんあります。学校に面した道の清掃作業や、時には挨拶運動を生徒と一緒にやって行う事ができるのです。朝、生徒に出会えると、今では、生徒の方から進んで挨拶をしてくれるようになりました。子どもたちと気持ちが通じ合う瞬間があり、気持ちよくその日をスタートすることができると感じます。そんなとき、「子どもって本当にいいな」と改めて感じます。



先生方、そして子どもたちと関わることでできる素晴らしい環境の中にある、そのような場所で働くことができることに對し、感謝の気持ちでいっぱいです。すべては「子どもにとつてどうなのか」が、教育活動を進めるうえで大切なことの一つであると思うのですが、自分の今成すべき役割をしっかりと行い、そのことが子どもの成長につながっていくのだと信じ、頑張りたいと思います。そして、なんとと言っても、学校現場で奮闘されておられる先生方の一助となるよう日々研鑽を積み重ねていきたいと思っています。

つながりを大切に



山陽小野田市教育委員会
指導主事 稲田 貴子

小学校の教員になって二十二年。その間に、県内の様々な地域の学校で学級担任として過ごしてきた。毎日学校に行つて、子どもたちと共に過ごすことが私の仕事だと思っていた。担任しているクラスや校務分掌は変わっていても、これから先もずっと小学校が私の職場だと思っていた。

昨年度末、事務局に入ることが決まると、ただただ不安しかなかった。まず、事務局には子どもたちがいない。事務処理は大変そう。どんな仕事をするのか見当もつかない。小学校の先生になつたはずなのに……。

四月になり、いざ仕事が始まると、様々な事務処理が予想以上に大変だった。事務局から学校に依頼することも多く、心苦しい毎日だった。

でも、しばらくたつたある日、指導主事の仕事は、たくさんの人たちとの出会いがあることに気がついた。そして、仕事のマイナス面ばかりに目がいっている自分にも気がついた。たくさんの人たちとの出会いを通して、学校には保護者の方だけではなく、地域の皆さん、市職員の方々が、その他様々な機関の方々が関わってくださっていることを改めて実感した。そして、そのたくさんの人たちをつなぐのも自分の役目なのだということも自覚するこ



とができた。同時に、自分の強みにしていきたいとも思えるようになった。まだまだ未熟な自分だけれども、これからは指導主事として、たくさんの方々とつながりを大切にしながら、学校現場の子どもたちや先生方の力になれるよう、日々努力していきたいと思う。

美祿市秋吉台科学博物館

日本一の規模を誇る秋吉台国定公園の中央を走る秋吉台公園線（通称カルストロード）の中ほどを展望台に向かうと広大な秋吉台が広がります。まるで草原にたたく羊の群のように見える展望台からの眺めは圧巻です。



その展望台のすぐ脇に、「秋吉台科学博物館」があります。かつては日本陸軍の演習場として、戦後にはアメリカ軍の実弾射撃演習場として利用されました。その後爆撃演習場としての利用が浮上したことから、山口県、秋芳・美東両町や大学、国内外の学会から秋吉台を守る運動が展開され、これを契機に、昭和34年に本施設が設立されました。

入り口を入ると、右手に秋吉台の学術的意義とその保護に尽力された初代館長の恵藤一郎氏をはじめE・ガントレット氏、梅原文次郎氏の胸像に迎えられます。



左手ではヤベオオツノシカの骨格標本が、本館のシンボルであるかのごとく迎え入れてくれます。

1階には洞窟産哺乳類化石の展示、コウモリをはじめ洞窟にすむ生物の紹介、秋吉台とその周辺に生息する動植物の標本や写真パネルが展示してあります。



2階に移ると、古生代の海の生物や秋吉台の地質構造、カルスト地形のなりたちや約1万年前に秋吉台で暮らし始めた人々の遺跡や古墳などの資料が所狭しと紹介してあり、幅広く秋吉台について学ぶことができます。



「資料収集、調査研究、展示、普及教育は、博物館活動としての基本だが、それは秋吉台を知るためのほんの入り口にすぎない。本館では加えて研究者の研究活動を通じた学会への貢献と秋吉台・秋芳洞の保全という大きな使命があり、日々の調査研究から生み出される新たな発見は、今なお学術的価値が高く、その豊かさは計り知れない」とは、

藤川将之館長補佐さんの話でした。

〒754-0511 美祿市秋芳町秋吉1237-938

TEL 0837-62-0640 FAX 0837-62-0324

開館時間：9：00～17：00 入館無料

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は火曜日休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

URL：<https://akihaku.jimdo.com>

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム



見えてきます。右折すると、間もなく右手にモダンな建物が目に飛び込みます。「土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム」です。

昭和28年から平成12年まで、実に19次にわたる調査が行われた結果、約300体の弥生時代の人骨が出土し、これらの貴重な資料を保存、活用するとともに調査研究を推進するため、平成5年本施設が建設されました。ここでは、弥生時代の人骨や副葬品などを出土した国指定史跡「土井ヶ浜遺跡」の全容が紹介されています。

エントランスホールを中心に、企画展示室、弥生シアター、展示室などが広がっています。企画展示室では、ミニ企画展「赤米通信 ～土井ヶ浜と赤米のかかわり～」が開催されていました。

展示室では、土井ヶ浜弥生人の特徴や日本人の骨の時代変化などの人類学の展示に加え、出土した貝製品や土器が展示されています。

土井ヶ浜遺跡で出土した人骨は、カルシウムを多

く含む砂丘の土に抱かれていたことから、保存状態の良い骨が多く、そのおかげで研究進み、縄文時代の人との身体的特徴や生活の違いが明らかになり、また、新たな問題の提議にもなりました。

本館脇の古墳状の小高い丘には別棟「土井ヶ浜ドーム」があります。ここでは、1次から3次までの発掘調査の現場が当時のまま復元してあります。「埋葬された人が皆海の方を向いているんですよ」と大藪学芸係長さんから説明を受けた時には、えもいわれぬ神秘さを感じました。



3D映像で日本人のルーツを追う「弥生シアター」や「湿生花園」など、見どころ満載の施設でした。

〒759-6121 下関市豊北町神田上891-8

TEL 083-788-1841 FAX 083-788-1843

開館時間：9：00～17：00

観覧料：一般200円（160円）大学生等100円（80円）

*（ ）内は20名以上の団体料金

*高校生以下、下関市・北九州市の65歳以上、他地域の70歳以上の方は無料

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

年末年始（12月29日～1月3日）

URL：<http://www.doigahama.jp/>

かご



柳井支部

須内 章雅

「編み籠」、私は中学校の美術科教師でしたから、趣味か本業かは微妙なところ。編み籠との最初の出会いは、二十代のころの熊毛郡・大島郡の図工・美術科教員の実技研修でした。講師は当時の上関中学校の教頭先生です。先生が指導された中学生の作品は文部省の事例集(工芸分野)に掲載されていたので本当の出会いはもつと前でした。

少し難しいような話になりますが、「編む」という造形は、人類文化の土台の一つではなからうかと私は思います。我々は糸を編んだ布をまとうことで寒さや危険から守られています。籠があれば手では持てない量のものを運ぶことができます。そういえばちよつと前、「舟を編む」という辞書を編集する物語もありましたね。



はたから見れば細かい作業なので面倒くさいように見えますが、私は編んでいるとき心が落ち着き、癒されます。

ます。自然に集中できるからでしょうか、余計なことを忘れてしまえるからでしょうか。(お酒をたしなみながら、テレビを見ながらでもできるという手

軽さもあります。)

授業で三十数人の中学生に対して一人が教えるのは大変でしたが、思いがけない才能を発見するなどの楽しさ・喜びもありました。教職生活の半ばでは取り組んでいない時期もありました。本格的に復活したのは管理職になつてからです。ちょうどコミュニティ・スクールの導入が始まりつつあったころです。保護者や地域の方々には遠慮なく学校に来ていただく窓口として講習会「もづくりの会」を開きました。以来、はまつてしまつた方も多数いらつしやいます。今では私よりも高度な技術を身につけた方もいらつしやることでしょう。

かごづくりの講習会は自宅、退職時の地域、再就職先の専門学校に近い公民館、各種研修会などの場でも続いています。



一瞬一生・一生一瞬



下関支部

川崎 誠和

中二の時に「絵描きになるんだつたら、俺達みたいに教師になれば、毎日描けるぞ」、恩師のその一言に釣られ、美術教師をめざし励んだ。

都内の小学校を振り出しに美術科教師という魚籠に収まった。爾来、三十六年先輩教師の「教えるからには己の技量を磨け」の叱咤に支えられて、どうにか抽象絵画の世界で遊泳開始した。恩師に誓つたモダンアート協会の会員にもなれた。その後退職を機に、十三回忌の墓前で会員を辞し、同時に新たな志を立てた。

高二の時、県美展入選の審査委員に香月泰男先生がおられた。先生の「一瞬一生・一生一瞬」のお詞が胸に刻まれた。「この時分は人生は短いので一瞬一瞬を大切に」という教えであり、共感できた。

現在、誰に憚ること無く絵筆を進めることが出来るのは、今まで自分に注力くださった心の恩師の方々が居てくださったからに他ならない。

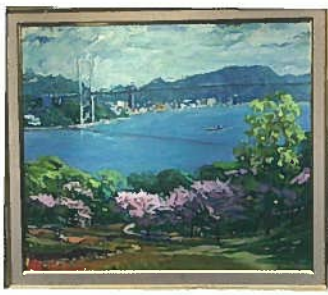
最近では、手法の分からない描法を、教師になつた教え子から手ほどきされる身は嬉しくもあり、彫刻の個展等で意気揚々と泳ぎまくっている彼等の魚籠に収まっていけない活躍に、頼もしくも心躍る一瞬がある。

また、同質では無いが、スポーツも

愉しんでいる。川崎市の中学校で優勝して以降、サッカー部を受けもつた。現在では下関での教え子は自弁自費で市のサッカー協会やボランティアに参加し教諭や少年団の指導者として活躍中である。下関市サッカー連盟のミドルチームに川崎組という名で教え子たちとチーム登録をした。試合中に「先生、そこはシュートでしょう!」と、やんちゃだった教え子に喝を入れられては、禿頭を掻く身の何と爽やかなことか。

生きている私の人間のウオッチングをしてきているのは三十代から五十代の働き盛りの教え子たちである。自己の半生を振り返ると、幼き頃と違い、絵描きを第一とせず、生きた人間を第一とした己の生き様は、これで良かったのか。

ご近所の方々へ絵手紙の描き方や、下関美術協会の運営委員に携わりながらも、この投稿で香月先生のお詞をもう一度味わわせて戴く機会を得た。



教職時代を偲ぶ



山口支部
寺田 勉

結局、私の人生は「わくわくどきどきサイエンス」。思い起こせば中学時代のユニークな理科の先生にえらく影響を受けて就いた中学校の理科教師三十七年間の教職人生でした。昔から「創意工夫」や「物づくり」、教材研究、教具開発」が大好きでした。

当時、目標にした教師像で好きな言葉は「V S O P」。Vはバイタリティー、情熱。Sはスペシャリティー、専門性。Oはオリジナリティー、独創性。Pはパーソナリティー、人間性。また、教職研修の二本柱は、①学級づくり仲間づくり研修（個集研）と、②専門分野の理科の研修（ソニーの理科研究会）と考えてやってきました。

校長時代、月に一度の全校集会は角島中学校から始まりました。書店で校長講話集という分厚く高価な本を買って準備しました。生徒の心に響く話を目指しましたが響いているとは言えない生徒の様子。まず自分が心に響いた事でないかと伝わらないと三回目からはおもしろサイエンスに変更。生徒に「おー！」の声を上げさせたい、あの米村でんじろう氏のように。ときには数学の円や球の面積や表面積や体積の公式を導く教具で、「なるほど〜！」の声をあげさせたい、数学教育者の秋山仁先生のよう。使った教具は生徒昇降口に説明シートとともに展示して体験してもらいました。言ってみれば、生徒昇降口のミニ科学館です。



私の発信



ときには、金子みすゞの詩「不思議」に絡めて、四十日間かけて五十頭のカイコの生態観察も行いました。桑の葉も可能な生徒に持参してもらいました。大部分は私が準備しましたが。

昇降口展示に生徒がいるときは私も出かけていき、いろんな立ち話をしました。毎月の教具づくりを九年間続けたのでたくさんさんのネタもできました。

今SNSなどで出会う卒業生がいうには、ユニークな存在の私だったようです。生徒の好奇心をくすぐりたい私の狙い通りの私の姿だったようです。

第二の人生は防府市青少年科学館ソラールでの五年間。楽しかった！ そのうち四年間は文部科学省からの依頼で上野の国立科学博物館の外部評価委員という貴重な経験をさせていただきました。

第三の人生は今年九月十四日（金）から五十二日間の山口ゆめ花博の「日本一高い30mの木製ブランコ」のそばでのおもしろガイドを目指して準備中です。ブランコの原点は振り子です。振り子は奥が深いです。等時性、共振、フーコーの振り子、メトロノーム、リサージュ曲線、二重振り子、ニュートンのゆりかごなど。高さ30mのブランコは行って戻るまでに約十秒かかります。滅多に乗れない30mのブランコに乗ってアルプスの少女ハイジになつてほしいな。お待ちしています。

結局、私は教職時代に授業や全校集会でやってきた「わくわくどきどきサイエンス」を今も続けている気がします。

終身会員の紹介

榎 義憲 様（萩） 内田 重美 様（萩）
長安 宏 様（阿東）

定時評議員会

六月十一日（月）

山口県教育会館

○第一号議案 一般財団法人山口県教育会理事の選任について

○第二号議案 平成29年度一般財団法人山口県教育会事業報告及び決算について

○第三号議案 平成29年度一般財団法人山口県教育会公益目的支出計画実施報告書について

第一号議案において左記の者が理事として承認されました。

1	再	倉増 誠彦	7	新	竹内 弘美
2	新	中村 哲夫	8	新	戸井由美子
3	再	吉岡 周三	9	再	早川加代子
4	新	松本 正子	10	再	谷 一夫
5	新	秋田 和美	11	新	西本 次男
6	新	栗林 正和			

*（再）は再選、（新）は新たに選任された

その他の議案も全会一致で承認されました。

本評議員会をもって、十三年の長きに渡り本会の振興に尽力されたた井上洋会長が退任されました。



臨時理事会

六月十一日（月）

山口県教育会館

○第一号議案 一般財団法人山口県教育会 会長、副会長、専務理事の選任について

本議案により、

会 長……倉増 誠彦
副会長……中村 哲夫
専務理事……吉岡 周三

報告及び協議

報告では、平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について説明し、協議では、山口県教育会の課題や今後の展望について意見交換を行いました。